

10 シダ植物

10 シダ植物

近年、広島県のシダ植物相は、ほぼ解明されてきた。松村・井上（2016）は、竹田（1987）の「広島県のシダ植物」を基にその後の調査結果を加えて「広島県におけるシダ植物の分布」を著し、広島県のシダ植物として、313種類（235種 15変種 63雑種）を記録している。さらに、松村・井上の記録以後に新しく雑種・変種を含めて21種類のシダが確認されており、現在広島県で確認されているシダ植物は、334種（種以下の単位も1種とする）である。前回（2011）の調査時には広島県のシダ植物は306種であったので、前回調査以後28種が新たに確認されたことになる。

今回選定された種は、絶滅危惧Ⅰ類が14種、絶滅危惧Ⅱ類が23種、準絶滅危惧が16種、情報不足が3種で計56種である。これは、広島県に自生するシダの約17%にあたる。

種名、学名、科名、科の配列は環境省のグリーン・リストに従った。分布については、主に最新の情報が記述されている海老原（2016, 2017）「日本シダ植物標本図鑑Ⅰ・Ⅱ」によった。

新たに選定された種を表1に示す。

表1 新たに選定した種と選定理由

科名	和名	カテゴリー	選定した理由
ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ	絶滅危惧Ⅱ類	2015年に発見された。生育環境が悪化して消滅が危惧される。
チャセンシダ	ヤマドリトラノオ	絶滅危惧Ⅱ類	2003年の調査では絶滅危惧Ⅰ類、前回（2011）は雑種としたが、最近の研究で種とされた。
イノモトソウ	ヒメミズワラビ	準絶滅危惧	最近の研究で県内のミズワラビは、すべてヒメミズワラビとされた。
イノモトソウ	モエジマシダ	情報不足	最近確認された種で、十分な情報がない。
メシダ	トゲヤマイヌワラビ	情報不足	最近確認された種で、十分な情報がない。

今回削除したのは、表2の1種である。

表2 削除した種と削除理由

科名	和名	前回のカテゴリー	削除した理由
イノモトソウ	ミズワラビ	準絶滅危惧	県内のミズワラビは、すべてヒメミズワラビとされた。

今回表3に示す4種について、カテゴリーを変更した。

表3 カテゴリーを変更した種と変更理由

科名	和名	変更したカテゴリー	変更した理由
イノモトソウ	ヒメウラジロ	準絶滅危惧→絶滅危惧Ⅱ類	園芸による採集圧が高く、開発行為（道路建設）や農業基盤整備事業による石垣の破壊などによる生育地の消失・縮小が見られる。
イノモトソウ	エビガラシダ	絶滅危惧Ⅰ類→絶滅危惧Ⅱ類	新たに自生地が確認された。
ヒメシダ	オオバシヨリマ	絶滅危惧Ⅰ類→絶滅危惧Ⅱ類	県東部の標高1,000m以上の高所で比較的多くの個体数が維持されている。
シシガシラ	ミヤマシシガシラ	絶滅危惧Ⅱ類→情報不足	前回報告された個体は誤り、他の産地も古い記録で標本がない。

シダ植物を取り巻く環境

選定種の中に水生のシダと呼ばれるデンジソウ、サンショウモ、ミズニラ、オオバシナミズニラ、オオアカウキクサ、アカウキクサ、ヒメミズワラビを取り上げている。これは、広島県に自生する水生シダのすべてである。これらの多くは過去においては、県内の広い範囲で普通にみられたもので、我々の生活の変化によって環境が変わり、減少してきたものである。水田除草剤などの農薬の使用、家庭・工場などからの排水による水の汚濁や富栄養化で水質が悪化したことに加え、圃場整備で、農地が改変されたこと、宅地造成、工場用地への転換、ため池の埋め立てなどによる自生地喪失・縮小が原因と考えられる。これらのことは、水と深く関わって生育しているシダにとっては大きな脅威となっている。水は我々の生活にも大切なもので、水生のシダの減少は、環境悪化に対する警鐘とも受け取れる。水質の保全に努めることが望まれる。

希少な種、園芸に適した種については、個体の乱獲、盗掘、過剰な採取が行われて個体数が減少したり消滅したりした自生地がいくつかある。マツバラシダ・ヒメウラジロ、オクタマシダ、イワオモダカなどは特に採集圧が高い。環境教育や啓発活動による自然保護に対するモラルの向上を図ることが重要である。

スギ・ヒノキの植林地の伐採が行われている。伐採のため生育地を失う場合もあるが、切り出した材を運搬する道路の拡張等によって自生地に影響を与えているところも見受けられる。植林地の伐採は必要な経済活動であり、止めることはできないが、伐採の方法や対処の仕方については、今後どのようにしたらシダを含めた植生を守れるか検討を要するところである。

シカの食害による生態系の破壊が進行している。安芸高田市はシカの生息密度が高く、植生の衰退が進んでいる。安芸高田市吉田町郡山では、過去においてサキモリイヌワラビ、アイアスカイノデ、雑種のホクリクイノデ、ドウリョウイノデなど比較的希少なシダがスギ植林地の林床に繁茂していたが、絶滅の状態である。全山で 95 種類のシダが確認されていたが、現在ではシダの生育が激減している。シカが入れない急斜面上部に残されたシダやシカの忌避植物であるイワヒメワラビ、コバノイシカグマ、コシダ、ウラジロなどが見られる程度である。県の東部、北部にシカの生育域が広がっており、県北の庄原市においてもシカが目撃数が増加し、生息密度が徐々に高くなっている。シカの増殖を抑制することが必要で、行政当局による対応がこれまで以上に強力に進められることが必須となっている。

地球の温暖化が言われて久しいが、最近の気候は降雪量の減少、夏の高温など温暖化を思わせる現象が顕著である。温暖化により、暖地性のシダが増殖しているように考えられる。2003 年時の調査では準絶滅危惧として取り上げられていたオオカグマは「県内で比較的多く見られ、絶滅の危険性が低い」ということで、前回（2011）から削除された。

市街地で増加しているシダとしてイヌケホシダとホウライシダがあげられる。これらは南部の市街地で普通に見られる。今回新たに選定したモエジマシダは、熱帯～亜熱帯性のシダで、県内で初めて自生が確認された。他に人家の庭などに繁茂しているイヌカタヒバは、石垣島や西表島などの八重山諸島に分布する熱帯～亜熱帯に自生する希少なシダであるが、県内に生育地を広げている。これらはいずれも暖地性のシダで温暖化の影響が考えられるが、栽培品からの逸出という要因もあり、どのようなメカニズムで増加しているのか今後の研究課題である。

(田丸豊生)

シダ植物選定種

絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

- 1 スギラン
- 2 ヒモカズラ
- 3 キヨスミコケシノブ
- 4 デンジソウ
- 5 サンショウモ
- 6 フジシダ
- 7 タキミシダ
- 8 ナカミシシラン
- 9 オクタマシダ
- 10 コウザキシダ
- 11 ヘイケイヌワラビ
- 12 メヤブソテツ
- 13 イワヒトデ
- 14 コウラボシ

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- 1 ミズニラ
- 2 オオバシナミズニラ
- 3 エゾフユノハナワラビ
- 4 ナガホノナツノハナワラビ
- 5 ハマハナヤスリ
- 6 マツバラシ
- 7 タカサゴキジノオ
- 8 エダウチホングウシダ
- 9 ヒメウラジロ
- 10 エビガラシダ
- 11 ヤマドリトラノオ
- 12 イチョウシダ
- 13 アオガネシダ
- 14 クルマシダ
- 15 ヒメミゾシダ
- 16 ミヤマワラビ
- 17 コガネシダ
- 18 イッポンワラビ
- 19 サクライカゲマ
- 20 ムラサキベニシダ
- 21 ナガサキシダ
- 22 クラガリシダ
- 23 イワオモダカ

準絶滅危惧 (NT)

- 1 オオアカウキクサ
- 2 アカウキクサ
- 3 ヒメミズワラビ
- 4 ナチシダ
- 5 シモツケヌリトラノオ
- 6 カミガモシダ
- 7 イワヤシダ
- 8 ホソバシヨリマ
- 9 ヒメハシゴシダ
- 10 オオバシヨリマ

- 11 イヌイワデンダ
- 12 フクロシダ
- 13 ケキンモウワラビ
- 14 ナチクジャク
- 15 オニイノデ
- 16 カラクサシダ

情報不足 (DD)

- 1 モエジマシダ
- 2 ミヤマシシガシラ
- 3 トゲヤマイヌワラビ

スギラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Phlegmariurus cryptomerinus (Maxim.) Satou

ヒカゲノカズラ目 ヒカゲノカズラ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】常緑性で森林内の樹上や岩上にまれに着生するシダである。県内ではごくまれに自生が見られる。日本全土に広く分布するが、産地が少ない稀少種である。中国地方では、冠山山地を中心に分布している。</p> <p>【分布】北海道（南部・南千島）・本州・四国・九州・屋久島；朝鮮半島（済州島）・中国大陸（浙江省）・台湾に分布する。</p> <p>【形態】茎は径3~5 mm でまばらに分岐して30 cm ぐらいになるものもある。葉は線状披針形、全縁、革質で長さ1~2 cm, 幅2 mm 以内。胞子嚢は枝端ちかくにつき、胞子葉は栄養葉より短い。</p> <p>【近似種との区別】トウゲシバは葉の辺縁が不規則な鋸歯縁で地上に生えるが、スギランの葉は線状披針形、全縁で樹上や岩上に着生する。</p>
生息・生育状況	<p>廿日市市吉和と佐伯区湯来で樹上や岩上に着生している。自生地は県立自然公園、自然環境保全地域内にある。周辺に適度な湿度がある場所を好む。庄原市東城では岩上に生育のよい状況で確認されたが、アカマツ林内で比較的乾燥した場所である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>吉和から戸河内に至る十方山林道予定地の調査では多くの個体が確認されているが、林道が整備されると、生育環境が悪化する恐れがある。</p>
特記事項	<p>広島市佐伯区では採取により消滅したと考えられる自生地がある。これまで県の東部では生育が確認されていなかったが、2015年に庄原市東城町で1か所の自生が確認された。</p>
産地情報	<p>広島市（佐伯区）、庄原市（東城）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）</p>

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

田丸豊生 2018. 庄原市東城町でスギランの自生を確認. 比婆科学, 262: 54.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヒモカズラ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Selaginella shakotanensis (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô

イワヒバ目 イワヒバ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】北方系の常緑のシダ植物で、寒冷地の山地の岩の割れ目などに生育する。小さくてコケのように見える。おもに中部地方以東の山地に生育するが、京都府、奈良県、鳥取県、広島県、島根県にもわずかにある。</p> <p>【分布】北海道・広島県以東の本州（島根県隠岐）；ロシア（極東）・朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】茎は細く径1 mm ぐらい、長さ10 cm 内外でよく分岐して密に重なりあいマット状になっている。葉は長さ1 mm 内外の線形で茎に数列になって押しつけられているが、ときに開いて立ち上がる。胞子嚢穂は小枝の先端につき四角柱状になっている。</p> <p>【近似種との区別】エゾノヒモカズラは茎と葉が長さ1.5 mm と少し大きく葉縁に毛があるが、ヒモカズラには毛が少ない。</p>
生息・生育状況	<p>広島県は分布の西限の自生地で個体数も非常に少ない。生育地は国立公園内にある。山地の尾根の岩上にわずかに生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少性、もともと個体数が少ない。 局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。 盗掘、過剰な採取、登山者など人の立ちはいるによる踏みつけがある。</p>
特記事項	<p>守川(1959)は立烏帽子山で4か所、池の段で2か所の自生を記録している。その内立烏帽子山では1か所の自生地を確認していたが、その自生地からは消滅し、立烏帽子山での他の自生地は不明である。消滅した自生地付近は人による踏みつけが著しく、採取された可能性がある。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城）</p>

守川 輝 1959. 比婆山連峰の植物. 「比婆・船通・道後・帝釈郷土科学資料」. pp. 12-38, pls. 19-22. 比婆科学教育振興会, 広島県.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

キヨスミコケシノブ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Hymenophyllum oligosorum Makino

コケシノブ目 コケシノブ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性で、暖帯林の樹幹や岩上に生育する。</p> <p>【分布】関東地方以南の本州・四国・九州・屋久島；中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根茎は長くはい、まばらに分枝する。葉は2から3回羽状深裂、卵状長楕円形から卵状披針形、長さ2~5 cm、葉裏の軸上には淡褐色で多細胞の毛がある。孢子嚢群は裂片に頂生、円形から広楕円形。</p> <p>【近似種との区別】コケシノブは葉裏の脈上に淡褐色の毛がない。</p>
生息・生育状況	森林内の樹幹や岩壁に着生する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。個体数の減少や縮小が著しい。森林の伐採など生育地の改変が脅威となる。
特記事項	この20年間新たな産地が確認されないため、前回の報告(2011)時にランクを上げた。呉市教育委員会の出版物に灰ヶ峰、二河峡、野呂山などから報告があり、県のデータベースに含まれているが、生育は疑問である。
産地情報	廿日市市(佐伯)

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

デンジソウ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Marsilea quadrifolia L.

サンショウモ目 デンジソウ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】夏緑性の水生シダで、日本全国に広く分布するが、自生地は少ない。中国地方では、瀬戸内海地域を中心に分布している。池沼、湿地、水田などに群生していたが減少している。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州；朝鮮半島・中国大陸・ベトナム・ヨーロッパに分布する。</p> <p>【形態】根茎は細く泥中を長くはう。不規則に分岐し葉を接してつける。葉柄は10~15 cm。無毛で緑色。先端に小葉が四葉のクローバーのように田の字形に並ぶ。孢子嚢果は葉柄の基部のやや上から出る短い枝に1~3個つく。孢子嚢群は大孢子嚢と小孢子嚢が混在する。</p> <p>【近似種との区別】鹿児島県以南に分布するナンゴクデンジソウは孢子嚢果が葉柄の基部から出る。</p>
生息・生育状況	水田や水路などに生育していたが、ほとんどの地点で現状不明である。呉市では自生地が埋め立てられた。水田、湿地などで除草剤などが流入しない所に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	農薬汚染、化学物質による生態系への影響で、湿地や湖沼などの水質が悪化している。水田の乾田化や区画整理、水路の改変などによる生育地の消失・縮小が脅威となっている。
特記事項	古い記録によると、かつては水田雑草として各地で見られていた。水田に大量の農薬が使用されはじめた頃から減少したようである。栽培は容易で、増殖も可能である。池の埋め立てや水質変化を伴う工事を規制したり、移植を義務づけたりするなどの対策も必要である。
産地情報	呉市(呉)、竹原市、三原市(三原)、尾道市(因島、御調)

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

サンショウモ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Salvinia natans (L.) All.

サンショウモ目 サンショウモ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】一年生の浮遊性の水生シダ。暖地の水田、沼、溝などに群生していたが、絶滅寸前まで減少している。</p> <p>【分布】本州・四国・熊本県以北の九州；ロシア・朝鮮半島・中国大陸・台湾・インド・東南アジア・ヨーロッパに分布する。北海道には自生がみられない。</p> <p>【形態】茎は長さ5~10 cm, まばらに分枝し、多細胞毛があり、葉を接してつける。葉は各節に3輪生して、2葉は対生し、浮葉となり水面に浮かぶ。他の1枚は水中葉で、細裂して細毛を密生して、根のような機能をもつ。根はない。胞子嚢群は水中葉の基部に大胞子嚢と小胞子嚢が混じってつく。</p> <p>【近似種との区別】ナンゴクサンショウモが温室で栽培されているが葉は大きい。自生はしていない。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では、ごくまれな種でこのままでは絶滅する可能性が高い。水田や池沼などに浮生するがほとんどの地点で現状は不明である。三次市の自生地はダム建設でなくなった。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>農薬汚染や化学物質による生態系への影響で、自生地の環境が悪化している。生育地の埋め立て、水田の乾田化や区画整理、水路の改変などによる生息・生育地の消失・縮小が脅威となっている。</p>
特記事項	<p>過去の記録によると、かつては水田雑草として各地で見られていた。水田に大量の農薬が使用されはじめた頃(1960年代後半)から減少したようである。水質変化の規制または移植を義務づけるなどの対策が望まれる。栽培は容易で、増殖も可能である。</p>
産地情報	<p>府中市, 三次市 (吉舎, 三良坂, 三和)</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

フジシダ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Monachosorum maximowiczii (Baker) Hayata

ウラボシ目 コバノイシカグマ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、山地の林下の地上や岩上に群生している。山草として好まれる。広島県では西中国山地の冠山山地で確認されている。</p> <p>【分布】関東地方以西の本州・四国・九州；中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く斜めに立ち上がり、葉は集まって出る。葉柄は茶褐色で光沢があり、まばらに薄茶色の短い毛がある。葉身は単羽状複葉で小羽片には浅い鋸歯があり、歯の先に無性芽ができる。胞膜はない。</p> <p>【近似種との区別】オオブジシダは2~3回羽状で単羽状のフジシダとは見分けられる。</p>
生息・生育状況	<p>廿日市市 (吉和) では渓谷沿いの林下の岩場に、広島市佐伯区 (湯来) では岩場の岩隙に生育しているが個体数は少ない。いずれも適度な湿度がある環境である。自生地は自然環境保全地域内にある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少な種でもともと個体数が少ない。分布限界など消滅しやすい分布特性をもっている。個体の乱獲、盗掘、過剰な採取などが懸念される。</p>
特記事項	<p>いずれの地点も最近調査が行われていない。</p> <p>この20年間、新たな産地が確認されないため、前回の報告 (2011) 時にランクを上げた。</p>
産地情報	<p>広島市 (佐伯区), 廿日市市 (吉和)</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

タキミシダ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②, CR+EN-③

Antrophyum obovatum Baker

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: EN

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】常緑性で暖地の滝、溪流の縁などでごくまれに生育する。国内では生育地が減少している。庄原市東城町では石灰岩に着生している。</p> <p>【分布】千葉県以西の本州・四国・九州・屋久島；中国大陸・台湾・インドシナ半島・南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は斜めに立ち上がり、葉を叢生する。葉身は長さ 10 cm, 幅 7 cm 前後になる。やや長い卵形で、上から 1/5 ぐらいの所が幅が広く下に向かってしだいに狭くなる。脈は網目状をしているが、葉質が厚くて見えない。孢子嚢群は脈に沿って並行してつき、時に網目状になる。胞膜はない。</p> <p>【近似種との区別】県内に近似種はない。若い個体はサジランやヒメサジランと紛らわしいが、孢子嚢群の形状で区別できる。本種の孢子嚢群は、線形で分枝しながら並行して並び、時に網目を作るが、サジラン、ヒメサジランの孢子嚢群は分枝しない。</p>
生息・生育状況	<p>広島県ではごくまれにしか発見されない貴重なシダ植物である。神石高原町（油木）では 1957 年に確認されたが、消滅した。福山市山野町では 1981 年に確認されたが、その後、林道工事で周囲の樹木が伐採され日照が強くなり乾燥して消滅した。東城町で自生が確認された。自生地は国定公園または県立自然公園内にある。やや陰湿な山地林下の溪流近くの石灰岩上に自生する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>非常に稀少なシダで、個体数も少ない。個体の乱獲、盗掘、過剰に採取されることがあり、採取圧が高い。栽培はきわめて困難であり、採取しないことが望まれる。</p>
特記事項	<p>環境庁（1979）に帝釈峡からの報告があり、その地点では消滅しているが、新たに庄原市（東城）で確認された。</p>
産地情報	<p>福山市、庄原市（東城）、神石高原町（油木）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ナカミシラン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Haplopteris fudzinoi (Makino) E.H.Crane

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: DD

概要	<p>【摘要】常緑性、暖帯性要素のシダで、林内の樹幹や岩上に着生する。</p> <p>【分布】東京都以西の本州、四国、九州・屋久島にごくまれに分布する。中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くはい、鱗片を密につける。葉身は線形で長さ 25~40 cm, 幅 3~5 mm, 先端は尾状で葉質は革質。中肋が表面にやや隆起し、その両側に溝がある。孢子嚢群は中肋と葉縁の間の溝につく。</p> <p>【近似種との区別】シシランは葉縁近くに孢子嚢群がつき、葉縁が抱くことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県内では 1 か所だけで自生が知られている。湿った林内の岩壁に着生し垂れ下がっている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少なシダで、もともと個体数が少ない。特殊な分布をしており、分布限界など消滅しやすい分布特性をもっている。</p>
特記事項	<p>県内の産地は 1972 年に確認された 1 か所のみである。従来は県内の分布が十分解明されていないとして現状不明としたが、前回（2011）ランクを再検討し、絶滅危惧 I 類とした。自生地の付近にシシランとの雑種セトシシランが確認されている。</p>
産地情報	<p>廿日市市（吉和）</p>

中村 司 1974. 新シシランの採集. 日本シダの会報. 2(17): 9-10.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

オクタマシダ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Asplenium pseudowilfordii Tagawa

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の山地樹林下の岩上、樹幹に着生する常緑のシダ植物である。県内での自生地は少なく、近年急激に減少している。中国地方では、岡山県・広島県・山口県にごくまれに自生している。</p> <p>【分布】広島県以南の本州・四国に分布する。日本固有種と考えられている。</p> <p>【形態】常緑性。根茎は短く、直立からやや斜めに立ち上がる。葉は叢生し、長さ 30 cm 前後に達し 2~3 回羽状複生。切れ込みは浅く、広披針形から狭五角形。羽軸の表面に溝がある。孢子嚢群はやや長く、5 mm に達する。</p> <p>【近似種との区別】アオガネシダは葉身が深く切れ込み、2~4 回羽状複葉であることから区分される。コバノヒノキシダは羽軸の表面に溝がないことから区分される。</p>
生息・生育状況	安佐北区の 2 か所の自生地は 2012 年に確認したのを最後に消滅した。佐伯区の自生地は 2003 年には消滅した。福山市の採集記録は 1970 年で現状は不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、個体数が少ない。生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。個体の乱獲・盗掘・過剰な採取がある。
特記事項	近年急に減少し、消滅が危惧されるようになった。前回 (2011) から絶滅危惧 I 類に選定されたが、現在これまでに知られていた自生地で確認できなくなっている。県内での再発見が望まれる。
産地情報	広島市 (安佐北区, 佐伯区), 福山市

筒井貞雄 1971. 中国地方シダ散歩(2). 日本シダの会会報 2(6):10-11.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

コウザキシダ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Asplenium ritoense Hayata

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】暖地の山林中の岩上や樹幹に生育する常緑性のシダ植物。これまで県内では確実な生育は確認されていなかった。</p> <p>【分布】千葉県以西の本州・四国・九州・琉球列島・小笠原諸島；朝鮮半島 (済州島)・中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜上から直立。葉を叢生する。葉柄は緑色、扁平で長さ 5~20 cm, 基部に鱗片をつける。葉身は 2~4 回羽状に深裂し、卵形から三角状長楕円形, 長さ 10~18 cm, 先端は尾状に伸びる。羽片, 小羽片には短い柄がある。終裂片は披針形。孢子嚢群は裂片に 1 個つき, 長楕円形。</p> <p>【近似種との区別】コバノヒノキシダやトキワトラノオは孢子嚢群が終裂片に 1~数個つくことにより区分される。</p>
生息・生育状況	島嶼部に自生し、急傾斜の常緑樹林下の岩面に生育している。わずか 4 株が確認されており、個体数は非常に少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	太平洋沿岸を千葉県まで分布しているが、呉市の自生地は本州の西限自生地となり、分布限界にあたる。消滅しやすい分布特性をもっており、個体数も少ない。生育地の岩場とその周辺を広く保全することが望まれる。
特記事項	過去には帝釈峡や宮島から報告があるが、標本はなく生育は疑問である。竹田 (1987) は広島県のまぼろしのシダとして記述している。2009 年に呉市の島嶼部で自生が確認された。
産地情報	呉市 (豊浜)

高杉茂雄 2010. 広島県にコウザキシダが自生. 比婆科学 233: 68-69.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヘイケイヌワラビ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Athyrium eremicola Oka et Sa.Kurata

ウラボシ目 メシダ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】タニイヌワラビに似た常緑性のシダで、産地の樹林下に自生する。1952年に島根県鹿足郡柿木村で発見され、その後、鳥取県、広島県、山口県などで発見されている。近年、兵庫県でも発見されたごくまれなシダ植物である。</p> <p>【分布】兵庫県以西の本州に分布する。日本固有種である。</p> <p>【形態】根茎は斜めに立ち上がり、葉柄の基部とともに披針形で黒褐色の鱗片がある。葉は細長い披針形で、羽片の切れ込みは浅くほとんどの小羽片は羽軸に沿着する。葉柄、葉軸に細毛があり葉柄は赤紫色。孢子嚢群は半月形で、基部は羽軸に接近してつき、対のものどくつつく。</p> <p>【近似種との区別】ヘイケイヌワラビは葉柄、葉軸に細毛があり葉身が披針形。タニイヌワラビは無毛で、葉身は三角状卵形から三角長楕円形である。葉身の形で区別は容易である。</p>
生息・生育状況	産地がごく少なく、個体数も少ない。戸河内の自生地は西中国山地国定公園内である。広島市（安佐北区）でも発見されたが、植林地が伐採されており、現状は不明である。溪流沿いの林下でやや明るい場所に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、個体数が少ない。植林地内に生育しているものは、森林の伐採などによる自生地の改変により消滅することが危惧される。
特記事項	本種の自生地の近くで、タニイヌワラビとの雑種アキイヌワラビが確認されている。アキイヌワラビは、広島県がタイプ産地である。
産地情報	広島市（安佐北区）、安芸太田町（戸河内）

田丸豊生 1976. 広島県産シダ植物雑記(1). 比婆科学, 104: 11-14.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

メヤブソテツ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Cyrtomium caryotideum (Wall. ex Hook. et Grev.) C.Presl

ウラボシ目 オシダ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、石灰岩地の岩の隙間などに生育する。</p> <p>【分布】福島県以南の本州、四国、九州；朝鮮半島・中国大陸・台湾・南アジア・ベトナム・フィリピン・ハワイに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く塊状で斜上、鱗片をつける。葉柄は葉身より短く、基部に卵状長楕円形の鱗片を密につける。葉身は長さ 50 cm に達し、頂羽片の発達する単羽状複葉、革質。側羽片は 2 から 6 対、短い柄があり、卵状鋭尖頭で基部は円形、辺縁は鋭鋸歯となる。孢子嚢群は裏面に散生し、胞膜は円形で不規則な鋸歯がある。</p> <p>【近似種との区別】ヤブソテツは羽片の鋸歯が先端近くだけにあるが、本種は葉の縁全体に鋭くとがった鋸歯がある。他のヤブソテツ類にはこのような鋸歯はない。ソーラスが中肋よりにつくなどの点で、区別は容易である。</p>
生息・生育状況	広島県では三原市の山地に 1 か所のみ自生が見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、個体数が少ない。局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。森林の伐採など環境の変化が脅威となる。林床部の保全、生育地の環境変化を伴う工事を規制する必要がある。
特記事項	襲速紀要素の分布型を示している。中国地方にはほとんど分布しない。広島県の各地（とくに石灰岩地域）から報告されているが、標本が残されていない。ほとんどヤブソテツの葉の広い型を誤認したと思われる。現在のところ三原市以外では確認されていない。この 20 年間、新たな自生地が確認されておらず、前回（2011）にランクが上げられている。
産地情報	三原市

竹田孝雄 1987. 広島県のシダ植物. 560 pp. 博新館, 広島市.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イワヒトデ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Colysis elliptica (Thunb.) Ching

ウラボシ目 ウラボシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性で南方系のシダで、山地の湿った林下や溪流沿いの岩や地上に生育する。</p> <p>【分布】静岡県以西の本州・四国・九州・沖縄島以北の琉球列島；朝鮮半島（済州島）・中国大陸・台湾・南アジア・インドシナ半島・フィリピンに分布する。</p> <p>【形態】根茎は径 3～5 mm で長くはう。葉は頂羽片のある単羽状複葉で、中軸に翼があり、長さ 20～50 cm、幅 10～20 cm、緑色で光沢がある。2 形性で、胞子葉のほうが少し高くなり、羽片の幅は狭くなる。羽片は 3～4 対で脈は見えない。</p> <p>【近似種との区別】オオイワヒトデは根茎の径が 5～10 mm で、葉は 2 形性にならず、脈は見える。県内には自生しない。イワヒトデは根茎が 3～5 mm で葉は 2 形性になり、脈は見えない。</p>
生息・生育状況	<p>広島県の自生地は 1 か所で北限に近い。山麓の狭い谷川に沿って生育している。自生地には、クリハラン、ヤノネシダなど比較的稀少なシダが生育しており、環境的にはシダの生育に適した場所である。近くまで改修工事が行われている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>人家近くの溪流沿いの岩上に生育し、河川改修工事による自生地の破壊の恐れがある。自生地を含む周辺地域を改変しないことが望まれる。工事を行う場合は、事前に対策を講じること。溪流の岩上に生育しており、大雨による増水が発生すると流失する恐れがある。</p>
特記事項	<p>自生地付近で工事が行われ、生育地が破壊される恐れがあるため前回（2011）からランクを上げた。</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）</p>

倉田 悟・中池敏之 1981. 日本のシダ植物図鑑 2. 648 pp. 東京大学出版会, 東京.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑 II. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

コウラボシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②

Lepisorus uchiyamae (Makino) H.Itô

ウラボシ目 ウラボシ科

環境省: なし

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性の南方系のシダで、瀬戸内海の島嶼部にきわめてまれに自生する。冬季でもあまり気温が下がらず、暖かくて周囲があまり茂らない海岸近くの岩上に生育する。ノキシノブに似ている。</p> <p>【分布】本州（和歌山県・広島県・山口県）・四国・九州・琉球列島に分布する。日本固有種である。</p> <p>【形態】根茎は細く径 2 mm で横にはい、鱗片が密についている。葉はやや厚く、革質で葉脈ははっきり見えず、長さ 15 cm、幅 2 cm 前後になる。胞子囊群は円形で二列についている。</p> <p>【近似種との区別】ノキシノブは根茎の鱗片が不透明でコウラボシはほぼ透明。胞子囊群をおおう鱗片はノキシノブはほぼ円形でコウラボシは卵状三角形から披針形をしている。</p>
生息・生育状況	<p>瀬戸内沿岸では山口県と広島県にわずかに生育地がある。広島県の生育地は 1 か所で瀬戸内海国立公園内にあり、貴重な生育地である。海岸近くの道路脇の岩にコケとともに着生していたが、2002 年以降見られなくなり、現在では消失したと考えられる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少な種で、個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。</p> <p>局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもっている。</p>
特記事項	<p>類似した立地を調査しているが、新たな自生地は確認されていない。絶滅した可能性もある。コウラボシの広葉形として知られていたものがイシガキウラボシとして新しく分類されている。これまでコウラボシとして同定されていたものはイシガキウラボシである可能性があるという説もある。</p>
産地情報	<p>江田島市（沖美）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑 II. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ミズニラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Isoetes japonica A.Braun

ミズニラ目 ミズニラ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで、きれいな水が流入し日照のある浅い小川や湖沼の底などの水中に生育するが、湿地などにも生育する。農薬や開発工事などで全国的に生育場所が少なくなっている。池沼の富栄養化の影響も受けて個体数が減少している。</p> <p>【分布】本州・四国；朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】肥厚した塊茎から細く長さ 30 cm 前後で四稜の円柱状で基部が広い葉を束生する。同一の株に大孢子葉と小孢子葉ができる。大孢子は白くハチの巣のような穴がある。</p> <p>【近似種との区別】ミズニラの大孢子の表面はハチの巣のような穴がある。シナミズニラの大孢子には網状の突起がある。</p>
生息・生育状況	<p>県内各地のため池や湿地に生育している。安芸高田市（八千代）の産地は県自然環境保全地域内であるが、2010年の調査では確認できなかった。東広島市の生育地はゴルフ場造成と泥水の流入で絶滅した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>水質の汚濁と富栄養化による生育環境の悪化が大きな脅威となっている。ため池の埋め立て、改変工事など、生育地の改変により、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。</p>
特記事項	<p>ため池を精査することにより、新たな自生地がいくつか確認された。そのため前回（2011）からランクを下げた。耕作放棄地が増え、農薬の使用量が減少したことも関係している可能性がある。県指定野生生物種</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区）、三次市（三良坂）、庄原市（東城、口和、高野）、東広島市（豊栄）、廿日市市（大野）、安芸高田市（八千代、向原）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

オオバシナミズニラ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Isoetes sinensis T.C.Palmer var. *coreana* (Y.H.Chung et H.K.Choi) M.Takamiya, Mitsu.Watan. et K.Ono.

ミズニラ目 ミズニラ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで、きれいな水が流入し、日照のある浅い小川や湖沼の底など、水中に生育するが湿地などにも生育する。</p> <p>【分布】本州（茨城県・長野県・兵庫県以西）・四国・九州；朝鮮半島に分布する。</p> <p>【形態】肥厚した塊茎から細く長さ 30 cm 前後で四稜の円柱状で基部が広い葉を束生する。同一の株に大孢子葉と小孢子葉ができる。大孢子には網状の突起がある。小孢子の表面には多数の突起が見られる。</p> <p>【近似種との区別】オオバシナミズニラの大孢子の表面は網状の突起があるが、ミズニラやミズニラモドキの大孢子はハチの巣状の穴がある。</p>
生息・生育状況	<p>東部から北部のため池や湿地にわずかに生育しているが、三次市（三良坂）では農地造成工事で埋められた所がある。福山市の現状は不明である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>ため池の埋め立てや改変工事などによる生育環境の消失・縮小による環境の質的劣化、水質汚濁と富栄養化による水質の変化が大きな脅威となっている。</p>
特記事項	<p>従来シナミズニラとされていたが、高宮(1999)によって広島県のはすべて変種オオバシナミズニラとされている。県内でいくつかの自生地が確認されたので前回（2011）からランクを下げた。県指定野生生物種</p>
産地情報	<p>福山市、三次市（三次、君田、三良坂）、庄原市（西城）、東広島市（志和）、安芸高田市（甲田）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

高宮正之 1999. ミズニラ属の自然誌と分類. 植物分類, 地理 50(1): 101-138.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

エゾフユノハナワラビ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Botrychium multifidum (S.G.Gmel.)Rupr. var. *robustum* (Rupr. ex Milde) C.Chr.

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】 温帯から亜寒帯に分布する冬緑性のシダで、北海道、東北地方で多くみられる。南に来るほど少なくなり、広島県の自生はほぼ西限になる。</p> <p>【分布】 南千島・北海道・本州・四国；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸・ネパールに分布する。</p> <p>【形態】 葉は厚くてやや革質、葉柄および葉の裏面に毛がたくさん生えている。小羽片はほとんど無柄、裂片は込み合って重なり合う。</p> <p>【近似種との区別】 フユノハナワラビ、ヤマハナワラビによく似ているが、栄養葉の質が厚く、共通柄や葉柄に毛が多いことで区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>湿った樹林下、ササ類の茂った場所に隣接する草地に生育しているが、湿った樹林下ではスゲ類が広がり、またササ類も拡大しており、自生地が環境が変化し、消滅が危惧される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育環境の悪化、生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。管理放棄を主要因とする二次林・生育場所の攪乱が見られる。</p>
特記事項	<p>庄原市立比和自然科学博物館が行った「吾妻山植物誌」作成のための調査の中で、2014年に自生が確認された。その後、西城町においても自生が確認されている。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、比和）</p>

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

西岡秀樹・中村慎吾 2018. 広島県庄原市比和町吾妻山植物誌. 156 pp. 庄原市比和自然科学博物館, 庄原.

(田丸豊生)

ナガホノナツノハナワラビ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Botrychium strictum Underw.

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】 夏緑性のシダで冷温な地方の山地の陰湿な森林内に生育する。</p> <p>【分布】 北海道から九州まで分布するが、西日本ではまれである。ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸・ネパールに分布する。</p> <p>【形態】 根茎は短く、直立し肉質。栄養葉は2から3回羽状に深裂し、長さ15~30 cm。小羽片は無柄で、羽軸に流れて翼となる。胞子葉は穂状で2回羽状、羽片は短く密につく。</p> <p>【近似種との区別】 ナツノハナワラビは栄養葉が3から4回羽状複葉になり、羽軸に翼をつくらない。胞子葉は3から4回羽状で、羽片の柄は長く卵状三角形。</p>
生息・生育状況	<p>廿日市市吉和・庄原市西城町のスギ植林地・落葉樹林にわずかに生育している。庄原市東城町の生育地は道路工事の影響で絶滅した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少なシダで、もともと個体数が少ない。個体群がきわめて小さい。</p> <p>生育地の環境変化を伴う工事、森林の伐採など。</p>
特記事項	<p>南(1985)の廿日市市（吉和冠山）の報告は、その後確認されていない。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城、東城、比和）、廿日市市（吉和）</p>

南 敦 1985. 広島県冠山のシダ目録（予報）. 日本シダの会会報, 2(62): 18-19.

浜田展也 1990. 広島県シダ類ノート(1), 比婆科学, 146: 55-58.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ハマハナヤスリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ophioglossum thermal Kom.

ハナヤスリ目 ハナヤスリ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで日あたりのよい砂地や草地にまれに見られる。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球列島；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】小型の夏緑性草本で、根茎は短く、細い。栄養葉は単葉で無柄、線形から卵形まで変異が大きく、長さ0.7～5 cm、先端は鋭頭。孢子葉は6～9 cm、孢子嚢穂は長さ2～4 cmで、細い棒やすり状になる。</p> <p>【近似種との区別】コヒロハマハナヤスリは栄養葉に柄があり、やや薄い。</p>
生息・生育状況	<p>広島市（中区・南区）の生育地で開発により絶滅したと思われる。庄原市・廿日市市（宮島）の生育地でも現在生育を見ない。従来ハマハナヤスリとしていた種は県内で比較的多くの地点に見られる。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>草地の樹林化・宅地造成、土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化。生育地の消失、縮小や環境の質的劣化が著しい。</p>
特記事項	<p>コハナヤスリはハマハナヤスリの変種とされている。母種のハマハナヤスリとは中間型があって区別が難しく、同一種とする見解がある。そのため母種であるハマハナヤスリとした。ハマハナヤスリは県内で比較的多くの産地が見られるため前回（2011）からランクを下げた。</p>
産地情報	<p>広島市（中区、東区、南区、安佐北区、安芸区）、三原市（本郷）、尾道市、三次市（三次、三和）、庄原市（庄原、西城）、東広島市（八本松）、廿日市市（廿日市、大野、宮島）、北広島町（芸北）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

マツバラン 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Ptilotum nudum (L.) P.Beauv.

マツバラン目 マツバラン科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】暖地に自生している常緑性の原始的なシダ植物で、江戸時代から栽培されている。観賞用に採取されることも多く、開発などで少なくなり、絶滅した所も多い。</p> <p>【分布】宮城県以南の本州・四国・九州・琉球列島；朝鮮半島・中国大陸・台湾・南アジア・東南アジア・オーストラリア・南太平洋に分布する。</p> <p>【形態】山地の樹木や岩上に生育し、葉も根もなく茎は地上茎と地下茎に分かれて褐色の仮根をもつ。地上茎は数回2また分岐して30 cmぐらいになる。茎には小さい突起があり直立または下垂する。孢子嚢群は3個の孢子嚢が合着したものでほぼ球形をしている。</p> <p>【近似種との区別】マツバラン属のシダは世界には2種あるが、日本には1種だけであり、類似種はない。</p>
生息・生育状況	<p>生育地は瀬戸内海国立公園内にある。冬でも暖かい場所に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>園芸種として古くから栽培されており、個体の乱獲、盗掘、過剰な採取などが見られる。</p>
特記事項	<p>県内で比較的多くの地点に生育することが判明したので前回（2011）からランクを下げた。最近、発見されたものは小型で、栽培からの逸出の可能性もある。</p>
産地情報	<p>広島市（中区、南区、佐伯区）、呉市（倉橋、蒲刈）、三原市、大竹市、廿日市市（宮島）、江田島市（能美）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

タカサゴキジノオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Plagiogyria adnata (Blume) Bedd. var. *adnata*

ヘゴ目 キジノオシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】亜熱帯要素の常緑のシダ植物。この仲間は県内に3種生育するが、本種はきわめて少ない。伊豆半島までの太平洋岸を中心に自生している。</p> <p>【分布】伊豆半島以西の本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球列島；中国大陸・台湾・南アジア・東南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く斜めに立ち上がり、葉を叢生する。葉柄は根茎上にらせん形に生じる。栄養葉は単羽状で、葉柄は長さ5~20 cm、葉身は長さ15~50 cm、上部羽片はしだいに短くなり、頂羽片ははっきりしない。孢子葉は栄養葉より高く伸びる。</p> <p>【近似種との区別】オオキジノオは栄養葉の羽片は有柄、キジノオシダは栄養葉の先端ははっきりした頂羽片となることから区分される。</p>
生息・生育状況	県中部から南部に分布するが、個体数は非常に少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	県内では稀少なシダで、個体数が少ない。分布の限界にあり消滅しやすい分布特性をもつ。環境の変化で消滅する可能性が高い。
特記事項	中国地方では、隣県の山口県に比較的多くの産地がある。
産地情報	広島市（西区、安佐北区）、廿日市市（宮島）、安芸高田市（向原）

田丸豊生 1980. 広島県産シダ植物雑記(4). 比婆科学, 113: 27-30.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

エダウチホングウシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Lindsaea chienii Ching

ウラボシ目 ホングウシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】南方系の常緑性のシダで、静岡県以西の太平洋岸に分布しており、瀬戸内では山口県、愛媛県にわずかに自生地がある。広島県の自生地は北限に近い。山草として好まれる。</p> <p>【分布】伊豆半島以西の本州・伊豆諸島・四国・九州・琉球列島；中国大陸、台湾・ベトナム・タイに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くは、葉柄は赤褐色から褐色、葉はあいついで出て、長さ15~20 cmになる。2回羽状複葉で小羽片は浅裂と裂片の辺からやや内側に孢子囊群がつく。包膜の辺は不規則に切れ込む。</p> <p>【近似種との区別】広島県には近似種は自生していない。</p>
生息・生育状況	廿日市市（宮島）にわずかにあり、瀬戸内海国立公園内の谷川沿いのやや乾燥した林下に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	国立公園で採集禁止になっているが盗掘される恐れがある。局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	中国地方では他に山口県の瀬戸内沿岸にわずかに自生する。
産地情報	廿日市市（宮島）

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島（宮島）の維管束植物。「厳島の自然—総合学術研究報告—」, p. 221-332. 宮島町, 広島県.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヒメウラジロ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cheilanthes argentea (S.G.Gmel.) Kunze

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性で向陽の岩上や石垣にまれに生育する。人家近くや田畑の石垣にも自生する。石灰岩地で多く見られる。</p> <p>【分布】岩手県と関東以西の本州、四国、九州、琉球列島；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸・モンゴル・台湾・インドシナ半島・南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く直立からやや斜めに立ち上がり、葉柄とともに線形の赤褐色の鱗片をもつ。葉柄は葉身より長く、紫褐色で光沢があり折れやすい。葉は五角形状で、長さ幅ともに3~10 cmになる。最下羽片は大型で2~3回羽状深裂。他の羽片は1~2回羽状となり、中軸に流れて翼を形成する。葉の裏は粉を吹いたように白い。孢子嚢群は裂片の縁に並んでつき偽包膜でおおわれる。</p> <p>【近似種との区別】エビガラシダは細長く葉の裏側は白色にならない。</p>
生息・生育状況	<p>県南部から東部で石垣などにまれに見られる。とくに石灰岩や古生層の地域に多い。農業基盤整備事業や道路工事によって生育地が失われている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>開発行為（道路建設）や農業基盤整備事業による石垣の破壊などによる生育地の消失・縮小が大きな脅威となっている。園芸による採取圧が高い。</p>
特記事項	<p>筒井(1971)による広島市安芸区の産地は現状不明。庄原市（東城）の自生地は、人家の石垣であったが、廃屋になり個体数が増加している。</p> <p>戦前は広島城でも確認されているが、現在は見られない。</p>
産地情報	<p>広島市（安芸区）、呉市（蒲刈、安浦、豊浜）、竹原市、三原市（本郷）、福山市（福山、新市）、府中市、庄原市（東城）、大竹市、東広島市（河内）、神石高原町（神石、豊松、三和）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

エビガラシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cheilanthes chusana Hook.

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: VU

広島県 2011: CR+EN

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、日の当たる乾燥した岩上や石垣の間に生ずる。中国地方では広島県と岡山県に自生があるのみでごくまれな種である。</p> <p>【分布】和歌山県以西の本州・四国、九州；朝鮮半島・中国大陸・台湾・インドシナ半島に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く斜めに立ち上がり、葉柄とともに線形の鱗片をもつ。葉柄は紫褐色で光沢があり折れやすい。葉は叢生し、長さ5~25 cm、幅2~5 cmになり、2回羽状。羽片は約10対、羽状深裂して裂片は線形、孢子嚢群は裂片の縁に並んでつき偽包膜でおおわれる。</p> <p>【近似種との区別】ヒメウラジロが県内にあるが、葉が正三角形で葉の裏側が白色になる。エビガラシダは細長く葉の裏側は白色にならない。</p>
生息・生育状況	<p>国内では分布域も狭く、広島県では県東部でごくまれに生育している。産地は国有林内にある。古生層地帯の石灰岩の石垣にもあったが現状不明。日あたりのよい岩上や石垣に生育し、石灰岩や堆積岩を好む。最近、県南部や島嶼部でも生育が確認された。いずれの地点も石灰岩を含む堆積岩の分布する地域である。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。開発行為や森林伐採などにより生育地が消失する可能性がある。</p>
特記事項	<p>福山市四川ダム付近に生育していたが、このダムの建設によって自生地が失われた。その後、上流域で生育しているのが確認された。</p>
産地情報	<p>呉市（豊浜）、三原市、福山市（新市）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヤマドリトラノオ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Asplenium castaneoviride Baker

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: CR

広島県 2011: なし

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】従来トラノオシダとクモノスダの雑種として扱われていたが、これまでの研究の結果、種として扱うのが適切とされた。広島県東部の石灰岩地帯に生育している。全国的にも稀少な種である。</p> <p>【分布】北海道（後志）・関東地方以西の本州・九州（宮崎県）；朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】常緑性、根茎は斜上または直立し、やや厚い鮮緑色の葉が集まって出る。葉はやや二形で線形をしており1回羽状全裂、実葉は下方が縮小し狭まる。孢子嚢群のつく葉は直立している。栄養葉は孢子葉より葉身が短い。羽片は葉面が流れて中軸に翼をつくり柄はつかない。栄養葉の羽片は卵状である。鱗片は根茎付近にあって披針形、光沢のある黒褐色で格子状をなす。</p> <p>【近似種との区別】クモノスダとトラノオシダの雑種起源をもつシダであるが葉身の形が両種と大きく違っている。クモノスダは単葉であり、トラノオシダは2回羽状浅裂から全裂であり容易に区別できる。</p>
生息・生育状況	森林の縁の崖上にコケに交じって生育している。近くにトラノオシダ、クモノスダの自生が見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない、個体群がきわめて小さい。河川沿いの山道の崖上に生育している自生地では、道路の拡張について配慮が必要である。個体の乱獲、盗掘、過剰な採取など採取圧が高い。
特記事項	クモノスダとトラノオシダの混生地に自生している。
産地情報	福山市（福山）

筒井貞雄 1971. 中国地方シダ散歩(2). 日本シダの会会報, 2(6): 10-11.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イチョウシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Asplenium ruta-muraria L.

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性の小型のシダで、日本各地のやや寒い山地の石灰岩上に生育している。北半球に広く分布する。石灰岩上に生育するため産地は少ない。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州；ロシア・朝鮮半島・中国大陸・中央アジア・南西アジア・ヨーロッパ・北米（東部）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くは、斜めに立ち上がる。葉は長さ3~5 cm。厚くて革質、2回羽状で羽片も小羽片も数が少ない。小羽片はイチョウ形をしている。孢子嚢群は線形で脈に沿って数個つき、熟すと小羽片を一杯におおう。</p> <p>【近似種との区別】石灰岩地にはクモノスダがあるが、葉身は単羽状で、2回羽状のイチョウシダとは区別できる。</p>
生息・生育状況	石灰岩植物で広島県では石灰岩地帯にごくまれにあり個体数も少ない。自生地は国定公園地域内にある。石灰岩の窪みなどにわずかに生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。特殊な生育環境に自生している。個体の乱獲、盗掘、過剰な採取などがあり、採取圧が高い。
特記事項	帝釈峡の雌橋付近は入峡禁止となっているため、この付近では本種が少し増加している。ダムの堰堤付近では消滅している。ダムを見学するための通行人が多いことが考えられる。
産地情報	庄原市（東城）、神石高原町（神石）

田丸豊生・竹田孝雄 1987. 帝釈峡のシダ植物. 帝釈峡の自然（帝釈峡の自然刊行会、編）, p. 189-200, pls. 8-16. 帝釈峡の自然刊行会, 東城町.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

アオガネシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Asplenium wilfordii Mett. ex Kuhn

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、暖地の山林中の岩上や樹幹に着生する。県内の産地はきわめて限られている。</p> <p>【分布】伊豆諸島・関東地方以西の本州・四国・九州・琉球列島；朝鮮半島・中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜上から直立。葉柄は向軸側（表面）が暗緑色で、背軸側は黒褐色、長さ 10～25 cm、基部には密に鱗片がある。葉身は広披針形から狭楕円形で、2～4 回羽状複生、長さ 10～35 cm、羽片には柄がある。羽片は 8～10 対、三角状卵形。裂片はくさび形。孢子嚢群は線形から長楕円形、裂片に 1 個がつく。</p> <p>【近似種との区別】トキワトラノオやコバノヒノキシダは羽軸の表面には溝がなく、中心部が丸く盛り上がることによって区分される。</p>
生息・生育状況	県内の限られた地域に分布する。山林中の岩上に着生している。個体数は非常に少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ない、個体群がきわめて小さい。個体の盗掘、過剰な採取など採取圧がある。
特記事項	宮島の須屋浦の自生地は消滅したと考えられ、紅葉谷の個体群も著しく減少していて、絶滅寸前である。シカの被害にあうような場所ではないので、採取された可能性がある。安佐北区では新たな自生地が確認されている。
産地情報	広島市（安佐北区）、廿日市市（宮島）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

クルマシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Asplenium wrightii D.C.Eaton ex Hook.

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑で暖地性のシダである。中国地方では山口県、島根県に知られていたが、広島県では 1992 年に廿日市市、1994 年に大竹市で発見された。</p> <p>【分布】伊豆半島以西の本州・四国・九州・琉球列島；朝鮮半島・中国大陸・台湾・ベトナムに分布する。</p> <p>【形態】根茎は太くて短く斜めに立ち上がり、葉を束生する。葉の長さ 50～90 cm になる。葉柄は緑色で、裏側は黒褐色を帯びることが多い。葉身は単羽状複生で上部にいくにしたがって短くなり、頂羽片はない。羽片は披針形で鎌状。辺縁に鋸歯がある。孢子嚢群は線形で葉軸を挟んで 2 列につく。</p> <p>【近似種との区別】一見キジノオシダ科のキジノオシダと似ているが、キジノオシダの葉には頂羽片があり、2 形性で孢子葉は形が異なる。</p>
生息・生育状況	広島県では廿日市市、大竹市の冬でも暖かい場所に自生している。最近、太田川流域の岩場でも生育が確認された。ごく少数が溪流沿いのやや湿った岩場に自生している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、もともと個体数が少ない。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。森林の伐採などによる生育地の改変が脅威となる。
特記事項	温暖化と森林の伐採が少なくなったことにより、今後増える可能性もある。
産地情報	広島市（安佐北区）、大竹市、廿日市市

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヒメミゾシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Stegnogramma gymnocarpa (Copel.) K.Iwats. subsp. *amabilis* (Tagawa) K.Iwats.

ウラボシ目 ヒメシダ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性、暖地性のシダである。本州では広島県と三重県で発見されているごくまれなシダである。</p> <p>【分布】本州（三重県・広島県）・四国（愛媛県・高知県）・九州北部・琉球列島に分布する。日本固有種である。</p> <p>【形態】根茎は短く這い、岩の隙間などに密生してつく。鱗片は狭三角状で先端は尾状、葉の長さは通常 10 cm 幅 1.5 cm 前後で葉身は葉柄より長く下部の 2 対前後の羽片は無柄で独立する。上部の羽片は葉柄に沿う。胞子嚢は脈に沿ってつき、楕円形で包膜を欠く。</p> <p>【近似種との区別】ヒメミゾシダは小形で羽片は鈍頭で丸みがあり、長さ 3 cm 未満、ミゾシダの羽片は鋭頭で長さ 6 cm を超えるものもある。</p>
生息・生育状況	瀬戸内海国立公園内に自生し、溪流沿いの湿度のある岩面に生育している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少なシダで、個体数が少ない。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	2011 年に調査したが、貧弱な個体しか確認できなかった。沖縄県、奄美大島以外に自生しているヒメミゾシダは真のヒメミゾシダではなく、ミゾシダの一型との説もある。
産地情報	廿日市市（宮島）

竹田孝雄 1987. 広島県のシダ植物. 560 pp. 博新館, 広島.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ミヤマワラビ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Thelypteris phegopteris (L.) Sloss. ex Rydb.

ウラボシ目 ヒメシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで、暖帯上部から亜寒帯地域の林下にやや普通に生育している。南に来るほど少なくなり、中国山地では岡山県、鳥取県にわずかに見られる。</p> <p>【分布】北海道・広島県以東の本州・四国・九州（大分県）・屋久島；ロシア・朝鮮半島・中国大陸・台湾・南アジア・ヨーロッパ・北米（北部）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は長くはい、葉をまばらにつける。葉は長さ 15~30 cm。葉身は三角形で草質。1 回羽状複葉で、羽片は披針形で羽状に深裂する。基部は耳状の翼となって葉軸に沿うが最下部の羽片は基部が狭まり沿うしない。胞子嚢群は円形で包膜はない。</p> <p>【近似種との区別】ゲジゲジシダも葉軸に羽片の基部が翼状に沿うが、葉身は披針形で基部に向かってしだいに狭くなっている。</p>
生息・生育状況	広島県では 1989 年に発見された。呉市の産地は瀬戸内海国立公園内にある。主として寒冷地に生育しているが、海拔 800 m の山で海岸に近い所に生育しているのは周囲の環境とともに注目される。2007 年には西城町で、2009 年には、北広島町でも確認されている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	—
産地情報	呉市（川尻）、庄原市（西城）、北広島町（豊平）

浜田展也 1990. 広島県シダ類ノート(1). 比婆科学, 146: 55-58.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

コガネシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Woodsia macrochlaena Mett. ex Kuhn

ウラボシ目 イワデンダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】夏緑性で、暖帯から温帯下部要素のシダである。本州、四国、九州にまれに自生し、林縁の陰湿な岩上などに生育する。</p> <p>【分布】本州・四国・宮崎県以北の九州；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、直立から斜めに立ち上がり、葉柄の基部とともに線状披針形で赤褐色の鱗片を密生する。葉柄は褐色で頂端に関節がある。葉身は葉柄より長く5~15 cmで、長楕円状披針形、単羽状複葉で、中軸に毛があるが鱗片はない。羽片は卵形から卵状長楕円形で中裂から深裂し、両面に毛をもつ。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、胞膜はコップ状で不規則に裂け長い縁毛がある。</p> <p>【近似種との区別】イワデンダやイヌイワデンダは中軸に鱗片を持ち、羽片が全縁から鈍鋸歯縁になることで区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の古生層地帯に分布する。林縁部の陰湿な岩上に生育するが、個体数は非常に少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少性、もともと個体数が少ない、個体群がきわめて小さい。</p> <p>生育環境が林縁部であるため、道路沿いであることが多く、道路工事等による自生地の改変により消滅することが危惧される。</p>
特記事項	<p>福山市四川ダム付近に生育していたものは、ダムの建設によって自生地が失われた可能性がある。</p>
産地情報	<p>福山市（新市）、神石高原町（油木）</p>

竹田孝雄 1987. 広島県のシダ植物. 560 pp. 博新館, 広島.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イッポンワラビ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Cornopteris crenulatoserrulata (Makino) Nakai

ウラボシ目 メシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】本州の温帯に自生する夏緑性のシダで、北海道、本州（おもに中部以北）の山地の林下に生育する。広島県では近年発見されたが、これはほぼ西南限にあたる。</p> <p>【分布】北海道・広島県以東の本州；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸（北部）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は横走し、先端に少数の葉がこみあつてつく。葉柄は全体に淡褐色から暗褐色の鱗片がある。葉身は三角から三角状楕円形で、長さ30~60 cm、3回羽状深裂で下部羽片にははっきりした柄がある。小羽片にはごく短い柄がある。葉質は薄い草質、裏面の軸上に毛と細い鱗片をまばらにつける。葉脈は単生または離生。孢子嚢群は円形から楕円形で、中肋と辺縁の中間からやや辺縁よりにつく。</p> <p>【近似種との区別】ハコネシケチシダは葉脈が単生で小羽片に柄がない。</p>
生息・生育状況	<p>高野町の1か所のみから報告されているが、個体数は非常に少ない。スギ植林地の林床に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。稀少なシダで、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。生育地の改変、森林の伐採が脅威となる。</p>
特記事項	<p>1997年に松村雅文氏によって発見された。</p> <p>県内で新たな産地が見つからないため前回（2011）からランクを上げた。</p>
産地情報	<p>庄原市（高野）</p>

松村雅文 1997. 広島県にもイッポンワラビ. 日本シダの会会報, 3(11・12): 4-5.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

サクライカグマ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Dryopteris gymnophylla (Baker) C.Ch.

ウラボシ目 オシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、関東地方を中心に本州、九州の大分県にまれに自生する。低山の斜面などに生育している。広島県の自生地は本州西南限にあたる。</p> <p>【分布】岩手県以南の太平洋側の本州・九州（大分県）；朝鮮半島・中国大陸・タイに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く横に這い、葉柄基部とともに披針形の鱗片を持つ。葉柄は淡緑色で葉身より長い。葉身は五角状広卵形でかたい紙質、長さ20～40 cm、三回羽状複生で羽片には長い柄があり、最下羽片がとくに大きい。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、胞膜は円腎形でほぼ全縁。</p> <p>【近似種との区別】ナガバノイタチシダは羽片の柄が短く、葉身が卵状長楕円形、ミサキカグマは中軸や羽軸に鱗片が宿存することで区別できる。</p>
生息・生育状況	県東部の限られた地域に生育する。谷沿いの落葉樹林下のやや乾いた斜面に見られる。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少なシダで、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	生育地が道路沿いにあるため、道路の拡幅等に注意が必要である。
産地情報	福山市（福山、新市）

竹田孝雄 1974. サクライカグマの新産地. 日本シダの会会報, 2(17): 10.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ムラサキベニシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Dryopteris purpurella Tagawa

ウラボシ目 オシダ科

環境省: CR

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】常緑性のシダで、暖地のやや湿潤な林下にまれに生育する。</p> <p>【分布】本州（紀伊半島・広島県宮島）・四国（愛媛県・高知県）・九州・琉球列島（屋久島・石垣島）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜めに立ち上がり、葉を叢生する。葉柄は紅紫色で、鱗片は線形、黒色から黒褐色である。葉身は三角状広卵形で、長さ30～45 cm、上部はやや急に狭くなる。2回羽状複生から3回羽状深裂。羽片は三角状狭披針形、中軸や羽軸も紅紫色を帯びる。葉質はややかたい草質。孢子嚢群は小羽片の辺縁と中肋の中間につくものが多い。</p> <p>【近似種との区別】葉軸が紫色になり、羽片の軸は中軸に対して直角に近く、孢子嚢群は小羽片の縁寄りにつくなどの特徴から他のベニシダ類と区分できる。ヌカイタチシダモドキに似ているとの指摘もある。</p>
生息・生育状況	宮島の限られたやや湿潤な林下に見られる。個体数は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	シカによる被食や生育場所が攪乱される懸念がある。孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもっている。
特記事項	<p>県内の分布状況が不明であり、宮島という保護された地域に生育しているので、これまで選定していなかったが前回(2011)から絶滅危惧Ⅱ類(VU)として取り上げた。</p> <p>宮島ではシカが増えている。シカの摂食は多くのシダにとって深刻な脅威となっており、本種もシカの食害にあう可能性がある。</p>
産地情報	廿日市市（宮島）

筒井貞雄 1972. 中国地方シダ散歩(3). 日本シダの会会報, 2(9): 11-12.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ナガサキシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Dryopteris sieboldii (Van Houtte ex Mett.) Kuntze

ウラボシ目 オシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性、暖帯性要素のシダで暖地の山林下の陰湿な場所に生育する。美しいシダ植物で観賞植物として栽培されている。九州では多産するが、他の地域ではややまれに生育している。</p> <p>【分布】関東地方以西の本州・四国・九州；中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は斜めに立ち上がり、葉は厚い革質で、長さ 70 cm 前後、幅 30 cm ぐらいになる。葉身は単羽状ではっきりした頂羽片をもち、側羽片は 3 対前後。孢子嚢群は円形で羽片に散在してつく。孢子嚢群がついた葉の羽片はやや狭い。</p> <p>【近似種との区別】葉身の形がイノモトソウ科のイワガネソウに似ているが、イワガネソウは下部の葉が 2 回羽状になり孢子嚢群は脈に沿って長くつくことにより区分される。本種は孢子嚢群が円形であり、区別は容易である。</p>
生息・生育状況	<p>広島県ではごくまれなシダ植物。適度な湿度がある溪流沿いの林下や山地の林下に、生育している。群生することはない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>園芸用に個体の乱獲、盗掘、過剰に採取されるなど採取圧が高い。局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。</p>
特記事項	<p>三次市作木の生育地は工事により消滅した。安佐北区の自生地はその後不明である。</p>
産地情報	<p>広島市（南区，安佐北区），呉市，三原市，三次市（作木），江田島市（沖美），大崎上島町（大崎）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

クラガリシダ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

Lepisorus miyosianus (Makino) Fraser-Jenk.

ウラボシ目 ウラボシ科

環境省: EN

広島県 2011: VU

広島県 2003: CR+EN

概要	<p>【摘要】常緑性、暖帯性要素のシダで、深山の原生林中の樹幹に生育する。東アジア特産の珍種。日本での自生地は少ない。個体数も少なく減少している。</p> <p>【分布】中部地方以西の本州・四国（愛媛県・高知県）・九州（大分県）；中国大陸・台湾・インド（東部）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くは、根茎上に葉柄の落ちた跡がはっきり丸く残る。葉は長さ 40 cm、幅 4 mm 前後になり、両面とも平滑で無毛。中肋は表面では凹み溝になり、裏面は隆起して凸となる。孢子嚢群は葉軸の両側の溝につき、小さい盾状の鱗片をもつ。</p> <p>【近似種との区別】シシラン・ナカミシシランと葉身の形がよく似ているが、葉の断面が半円状に膨らんでいる、根茎に関節があるなどの点で区別できる。</p>
生息・生育状況	<p>広島県では西部に分布する。県東部からは報告がない。自生地の多くは自然環境保全地域内にある。山地の適度な湿度がある溪流沿いの樹木に着生している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。森林の伐採などによる生育地の改変が大きな脅威となる。広島市（佐伯区湯来）では道路の拡張工事により樹木が伐採されたため、風通しがよくなり存続が危ぶまれる。</p>
特記事項	<p>県内では比較的多くの産地が確認されたこと、ブナ林域での伐採が少なくなったことにより前回（2011）からランクを下げた。安芸太田町（筒賀）でも多くの個体を確認している。</p>
産地情報	<p>広島市（佐伯区），廿日市市（佐伯），安芸太田町（筒賀，戸河内），北広島町（大朝）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イワオモダカ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-③

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching

ウラボシ目 ウラボシ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】常緑性、山中の岩や樹幹に着生する。古くから観賞用に栽培されている。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州に分布するが自生地は少ない。朝鮮半島・中国大陸（安徽省）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くはい、長さ15cm前後の葉が接して出る。葉身は3~5裂し、革質で厚く、表面はほとんど無毛で、裏は赤褐色~灰褐色の星状毛でおおわれている。孢子嚢群は小形の円形で葉の裏一面に並んでつく。</p> <p>【近似種との区別】ヒトツバの葉身は卵形から広披針形で分裂しないが、イワオモダカは葉柄近くで3~5裂する。</p>
生息・生育状況	<p>広島県内では自生地も少なく個体数も少なく減少している。自生地は多くが自然環境保全地域内にある。溪流近くの適度な湿度のある場所の岩や樹木に着生する。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>園芸用として好まれ、再生産能力を上回る個体の乱獲、盗掘、過剰な採取など採取圧が高い。</p>
特記事項	<p>河内町の産地は生育を確認できなかった。庄原市（東城）では古木の樹幹に群生していたが、台風により枝が折れて一部が失われた。</p>
産地情報	<p>福山市（新市）、庄原市（東城）、東広島市（河内）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）、神石高原町（豊松）</p>

田丸豊生・竹田孝雄 1987. 帝釈峽のシダ植物. 帝釈峽の自然（帝釈峽の自然刊行会、編）、p. 189-200, pls. 8-16. 帝釈峽の自然刊行会、東城町。

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス、東京。

(田丸豊生・吉野由紀夫)

オオアカウキクサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Azolla japonica (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

サンショウモ目 サンショウモ科

環境省: EN

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性、暖地に生育する浮遊性の水生シダ。</p> <p>【分布】日本固有種で、本州・四国・九州（熊本県・大分県）に分布する。</p> <p>【形態】全体は三角形で秋に赤みを帯びる。長さ1.5~7cm。茎は密に羽状に分岐し葉と根をつける。葉は無柄で上下に二裂し、覆瓦状に密につく。孢子嚢群は側枝の第一葉の下側裂片に小孢子嚢群と大孢子嚢群が混じってつく。</p> <p>【近似種との区別】アカウキクサは小型で、葉の表面に粒状の突起が多くある。また、アカウキクサは根に根毛があるが、オオアカウキクサには、根毛がないなどの点で区別される。外来種のアメリカオオアカウキクサとの区別は困難である</p>
生息・生育状況	<p>沿岸部の水田やため池、溝、塩田跡などに自生するが近年非常に減少した。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>土地利用の変化にともなう生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。水質汚濁と富栄養化が大きな脅威となっている。外来種（帰化種）との競合が生じている。</p>
特記事項	<p>過去の記録を見ると、沿岸部ではかつては普通であったが、農薬の使用や生活廃水の流入などによって減少したと考えられる。</p> <p>外来のアメリカオオアカウキクサは、繁殖力が旺盛で、在来種への影響が危惧されている。</p>
産地情報	<p>呉市（蒲刈）、竹原市、三原市、尾道市（因島）、福山市（福山、沼隈）、府中市、東広島市（志和、福富）、府中町、熊野町、大崎上島町（大崎）、世羅町</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑Ⅰ. 475 pp. 学研プラス、東京。

(田丸豊生・吉野由紀夫)

アカウキクサ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b
Azolla pinnata R.Br. subsp. *asiatica* R.M.K.Saunders et K.Fowler
 サンショウモ目 サンショウモ科

環境省: EN
 広島県 2011: NT
 広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性、暖地に生育する浮遊性の水生シダ。冬に葉の色が赤くなる。</p> <p>【分布】朝鮮半島・中国大陸・台湾・南アジア・東南アジア；関東地方以西の本州・四国・九州・琉球列島に分布する。</p> <p>【形態】全体は三角形で赤みを帯びており、長さ1~1.5 cm。茎は密に分岐し葉と根をつける。葉は無柄で上下に二裂し、表面に粒状突起が密生する。根には根毛がある。胞子嚢群は側枝の第一葉の下側裂片に小胞子嚢群と大胞子嚢群が混じってつく。</p> <p>【近似種との区別】オオアカウキクサは全体が大型で根に根毛がなく、葉の表面の突起はないか非常に少ない。</p>
生息・生育状況	沿岸部の水田やため池、溝、塩田跡などに分布するが近年減少した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地の消失・縮小や環境の悪化など質的劣化が著しい。水質汚濁と富栄養化が大きな脅威となっている。外来種との競合、近縁種による交雑など外来種による圧迫がある。
特記事項	過去の記録を見ると、沿岸部ではかつては普通であった。農薬の使用や生活廃水の流入などによって減少したと考えられる。
産地情報	広島市（安佐南区）、呉市（音戸、安浦）、竹原市、三原市、尾道市（向島）、福山市、府中市、三次市（三良坂、三和）、大竹市、安芸高田市（甲田）、江田島市（能美）、熊野町、北広島町（豊平）、大崎上島町（大崎）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヒメミズワラビ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b
Ceratopteris gaudichaudii Brogn. var. *vulgaris* Masuyama et Watano
 ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: なし
 広島県 2011: NT
 広島県 2003: VU

概要	<p>【摘要】水中または湿地に生育する一年生草本で夏緑性のシダである。全国的に急速に減少している。</p> <p>【分布】山形県以南の本州・四国・九州・沖縄島以北の琉球列島；朝鮮半島・中国大陸・台湾・ネパール・グアム・ハワイに分布する。</p> <p>【形態】小さい根茎が斜上し長さ20~50 cmの葉を叢生する。水中にある葉は分裂が少なく裂片は幅が広い。胞子葉は水上に出て3~4回羽状深裂。裂片は線形で両側が反転して胞子嚢群を包む。発芽時期が遅く、夏頃になってやっと見るようになる。</p> <p>【近似種との区別】日本のミズワラビ属のシダはミズワラビ1種とされていたが、最近の研究により、ミズワラビとヒメミズワラビの2種に分類された。ヒメミズワラビは北方系で、奄美大島以北のものは基本的に本種である。</p>
生息・生育状況	日あたりのよい湿地、水田、水路などに生育する。東広島市と三原市で生育が確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	農薬汚染、化学物質による生態系への影響がある。土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化が脅威となっている。
特記事項	広島県産のミズワラビはヒメミズワラビに分類されるようになっており、今回から新しい分類で記録した。最近、いくつかの地点で生育を確認した。休耕田などの増加により増える可能性がある。
産地情報	広島市（安芸区、佐伯区）、三原市、福山市、府中市、東広島市（八本松、志和）、安芸高田市（高宮）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生)

ナチシダ 準絶滅危惧(NT) NT-b

Pteris wallichiana J.Agardh

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性、暖地に自生する大型のシダ植物である。本来は常緑であるが、広島県では冬に地上部が枯死する。</p> <p>【分布】千葉県以西の本州・伊豆諸島・四国・九州・沖縄島以北の琉球列島；中国大陸・台湾・南アジア・東南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、葉柄は長さ1mに達し、紫色で光沢がある。葉身は長さ1mをこえ、基部で3岐し、側枝は後ろ側に短い枝を出すので、全形は五角形状をなす。各枝とも2回羽状深裂する。</p> <p>【近似種との区別】分岐した形に特徴があり、他種と見まちがえることはない。</p>
生息・生育状況	太田川支流の北向きの谷筋に生育している。スギ植林地の林床に群生している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。</p> <p>局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。</p> <p>植林地の伐採など生育地の改変が脅威となる。</p>
特記事項	付近にはシカの食害が見られるが、本種はシカの不嗜好植物で、食害は見られない。
産地情報	広島市（安佐北区）

松村雅文 2001. 広島市でナチシダを採集. 比婆科学, 201: 42.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

シモツケヌリトラノオ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Asplenium boreale (Ohwi ex Sa.Kurata) Nakaike

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性、暖地の林内のやや乾いた岩上や林床に生育する。近縁のヌリトラノオよりやや乾燥した岩場に自生している。</p> <p>【分布】関東地方以西の本州・四国・九州；朝鮮半島・中国大陸・台湾・南アジア・ニューギニアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、直立から斜上、披針形の鱗片をつける。葉柄は光沢のある暗紫褐色から黒色、表面に溝がある。葉身は長さ10~40cmに達し、単羽状複葉、線状披針形。羽片は無柄、広楕円形で円頭、基部前側に耳片を持つ。孢子嚢群は線形で長さ1~4mm。</p> <p>【近似種との区別】ヌリトラノオは中軸の先端に無性芽を持ち、そこで葉身がとぎれたような形になるが、シモツケヌリトラノオは無性芽を持たず、葉身が先端まで正常にのびる。</p>
生息・生育状況	広島県では南部の暖地を中心にごくまれに生育し、個体数も少ない。樹林下のやや乾燥した岩上に着生している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。</p> <p>生育環境の減少と悪化、生息・生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。</p>
特記事項	安佐北区高陽の自生地では近くで道路拡張工事が行われ環境変化による影響が危惧されたが、現在のところ順調に生育している。
産地情報	広島市（安佐北区）、大竹市

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

カミガモシダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Asplenium oligophlebium Baker var. *oligophlebium*

ウラボシ目 チャセンシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性で、暖地の林内のやや陰湿な岩上や地面などに生育する。</p> <p>【分布】日本固有種で、中部以西の本州、四国、九州に分布し、とくに京都府から兵庫県に多く見られる。</p> <p>【形態】根茎は短く斜上、披針形で長さ1 mmの鱗片をつける。葉柄は光沢のある紫褐色から茶褐色。葉身は長さ7~20 cm、単羽状複葉、線形から線状披針形、薄い草質。羽片は無柄、狭長楕円形で円頭、深裂し、基部前側に耳片が目立つ。孢子嚢群は線形。中軸の先端が伸びて無性芽をつける。</p> <p>【近似種との区別】ヌリトラノオは羽片が浅裂し、耳片はあまり目立たないことで区別できる。</p>
生息・生育状況	広島県では南部の暖地を中心にまれに生育し、個体数も少ない。県東部には生育していないようである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	稀少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。森林伐採などによる生育地の消失・縮小が脅威となっている。
特記事項	広島市東区の自生地は林内の樹木の一部が伐採され、個体数が減少している。安佐北区では比較的大きな個体群が確認された。
産地情報	広島市（東区、安佐北区）、三原市、府中市、安芸高田市（高宮）

松村雅文 1999. 広島県産シダ植物の新産地情報. 比婆科学, 192: 73-75.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イワヤシダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Diplaziopsis cavaleriana (H.Christ) C.Chr.

ウラボシ目 イワヤシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】夏緑性、暖帯要素のシダである。本州、四国、九州の山地の林下にまれに生育する。</p> <p>【分布】本州・四国・九州；中国大陸・南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎は直立からやや斜めに立ち上がる。葉柄はわら色で、基部に披針形で黒褐色の鱗片がある。葉身は披針形から広披針形で、長さ30~70 cm、単羽状複葉で頂羽片がはっきりしている。羽片は8~12対、基部は切形で無柄、全縁か波状縁となる。孢子嚢群は線形で中肋近くにつき、胞膜はソーセージ状。</p> <p>【近似種との区別】とくに間違えそうな種はない。</p>
生息・生育状況	県中部から北部の山地の陰湿な林下に点々と広く分布するが、個体数は非常に少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	土地利用の変化にともなう生育環境の質的劣化、森林の伐採など生育地の改変が脅威となる。溪流沿いに生育しているところでは、自然災害などの影響もある。
特記事項	1970年代に確認した広島市安佐北区の自生地は水害により消滅した。西城町の自生地では植林地の伐採が行われており、自生地の道路が拡張された。幸い消滅はせず、林道脇の斜面にわずかに残っている。環境が大きく変化しており消滅が危惧される。
産地情報	広島市（安佐北区、佐伯区）、三次市（君田）、庄原市（西城、東城）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（加計、筒賀、戸河内）、神石高原町（神石）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ホソバシヨリマ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Thelypteris beddomei (Baker) Ching

ウラボシ目 ヒメシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】常緑性で亜熱帯から暖帯性要素のシダである。隔離的に分布し、産地は少ない。北限地帯では半常緑性になるようであるが、広島県では半常緑性である。</p> <p>【分布】静岡県以西の本州・四国（徳島県・愛媛県）・九州・屋久島；朝鮮半島・中国大陸・台湾・インド（南部）・スリランカ・東南アジアに分布する。</p> <p>【形態】根茎ははい、先端近くに草質で淡緑色の葉がやや密に出る。葉の長さ 40 cm, 幅 8 cm 前後で 2 回羽状で葉身の下部の羽片はだんだん短くなって耳状になる。羽片は深裂し、裂片は全縁か浅裂する。胞子嚢群は円形で円腎形の胞膜をもち縁寄りにつく。</p> <p>【近似種との区別】オオバシヨリマは小脈が分岐するが、ホソバシヨリマは分岐しない。</p>
生息・生育状況	道路縁にわずかと河川敷には群生している。山地のやや湿った地上。
存在を脅かす要因・保全の留意点	特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。生育地の改変、森林の伐採・道路の拡張工事が脅威となっている。
特記事項	この 20 年ほど新たな自生地が確認されていない。広島市安佐北区の自生地では、道路脇の草刈りで地上部を刈り取られることもあるようであるが、すぐに新しい芽を出し、生育に支障はないようである。
産地情報	広島市（安佐北区）、安芸太田町（戸河内）

筒井貞雄 1971. 中国地方シダ散歩(1). 日本シダの会会報, 2(5): 45-46.

関 太郎・中西弘樹・吉野由紀夫・宝理信也・田丸豊生・松村雅文・鈴木兵二 1983. 滝山峡の維管束植物. 滝山峡—自然と生活—総合学術調査研究報告(滝山峡総合学術調査委員会, 編), p. 237-294. 滝山峡総合学術調査委員会, 広島.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ヒメハシゴシダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Thelypteris cystopteroides (D.C.Eaton) Ching

ウラボシ目 ヒメシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】南方系、常緑のシダで、主として伊豆半島以西の太平洋側に分布し、瀬戸内海では宮島町に自生地があるだけで北限に近い。</p> <p>【分布】伊豆半島以西の本州・四国・九州・沖縄島以北の琉球列島；中国大陸（南部）・台湾・フィリピンに分布する。</p> <p>【形態】根茎は長くはう。長さ 3~5 cm, 幅 1~2 cm の葉をまばらにつける。羽片は数個の小羽片をもつだけで先端は鈍頭。葉質は草質からやわらかい紙質で、脈上に毛がある。胞子嚢群は円形から楕円形、胞膜は円腎形から馬蹄形で有毛。</p> <p>【近似種との区別】葉が有毛のコハシゴシダに似るが、ヒメハシゴシダは裂片が円みをもち脈を除いてほとんど無毛で小さい。</p>
生息・生育状況	産地は瀬戸内海国立公園内にある。山麓の斜面に群生している。適湿で暖かく明るい林縁や崖地を好む。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生育地における松枯れ以降の環境の変化、観光客の増加による環境の悪化が著しい。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	近年、コハシゴシダと本種との雑種ヒメコハシゴシダが、本種の自生地付近で発見された。これは、広島県新産である。
産地情報	廿日市市（宮島）

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島（宮島）の維管束植物. 厳島の自然—総合学術調査研究報告—（天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会, 編）, p. 221-332. 宮島町.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

オオバシヨリマ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Thelypteris quelpaertensis (H.Christ) Ching

ウラボシ目 ヒメシダ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】北海道と本州の温帯を中心に生育する夏緑性のシダ植物で、日あたりのよい湿潤地に群生する。広島県は本州における分布の西限である。</p> <p>【分布】本州・四国・屋久島；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸（吉林省）・北米（アラスカ・カナダ）に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜上か直立、葉を叢生する。葉柄は長さ 20~40 cm, わら色で密に鱗片がある。葉身は倒披針状、鋭尖頭、長さ 50~80 cm, 下部の羽片はしだいに小さくなる。羽片は三角状線形。葉質はやわらかい草質、緑色から暗緑色、葉面は無毛。孢子嚢群は裂片の辺縁近くにつく。</p> <p>【近似種との区別】オオバシヨリマは下部の羽片がしだいに小さくなるが、ヒメシダやヤワラシダは小さくならないことから区別される。</p>
生息・生育状況	<p>県東部の高所にだけ産する。日あたりのよい山頂付近に多い。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。植生遷移、牛馬の放牧停止に伴う遷移進行や植生の変化が危惧される。ササの侵入により生育環境が悪化し、減少する恐れが生じている。</p>
特記事項	<p>ササの侵入により生育環境が悪化し、減少する恐れが生じてきたため、前回（2011）絶滅危惧Ⅱ類(VU)に選定した。しかし、個体数が多く確認されたので、今回、ランクを下げて準絶滅危惧(NT)とした。</p>
産地情報	<p>庄原市（西城，東城，高野，比和）</p>

田丸豊生 1977. 広島県比和町のシダ植物. 比和の自然, p. 475-482, pls. 5. 比和町立科学博物館, 比和町.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

イヌイワデンダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Woodsia intermedia Tagawa

ウラボシ目 イワデンダ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダ植物で、山林中や林縁の岩上にまれに生育する。県東部にわずかに生育している。</p> <p>【分布】本州・四国（愛媛県）・九州（北部）；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜上から直立、葉を叢生する。葉柄に鱗片が少なく、中軸と羽片の裏面には毛に混じってごくまばらな鱗片がある。上部の羽片の基部が中軸に流れる。葉柄は長さ 5~10 cm. 葉身は狭披針形から線形。長さ 10~25 cm. 羽片は披針形から長楕円状披針形。孢子嚢群は羽片の辺縁近くにつく。本州（山形県，関東地方，中国地方）・四国（愛媛県）・九州北部・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【近似種との区別】イワデンダは中軸に狭披針形の、羽片の裏面には線状の鱗片があることから区分される。</p>
生息・生育状況	<p>県東部に分布するが、生育地点、個体数とも非常に少ない。樹林下や林縁の岩上に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>稀少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。道路建設などの開発行為や森林伐採などによる生育地の消失・縮小が危惧される。</p>
特記事項	<p>イワデンダとコガネシダの中間的形態をした独立種であるが、イワデンダとコガネシダの不稔雑種も混在していると考えられている。</p>
産地情報	<p>福山市（福山，新市）</p>

筒井貞雄 1973. 中国地方シダ散歩(4). 日本シダの会会報, 2(13): 170-171.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

フクロシダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Woodsia manchuriensis Hook.

ウラボシ目 イワデンダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで、温帯から亜寒帯に自生し、暖地には少ない。森林や林縁の岩上などに生育する。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・宮崎県以北の九州；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く直立し、鱗片を密生する。葉柄は赤褐色で光沢があり葉身より短い。葉身は5~30 cmで、狭披針形、2回羽状深裂で、裏面は白っぽく、中軸にはまばらに毛と鱗片がある。羽片は長楕円状披針形で基部は広いくさび形。胞子嚢群は裂片の辺縁近くにつき、胞膜は球形嚢状で大きく、辺縁は浅裂する。</p> <p>【近似種との区別】イワデンダやイヌイワデンダは葉柄に関節をもち、胞膜がコップ状になることで区別される。</p>
生息・生育状況	県内の産地は少なく、林縁部や森林内の斜面の岩上に生育している場合が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>希少な種で、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。</p> <p>生育地の消失・縮小や環境の質的劣化が著しい。</p> <p>森林の伐採、道路建設による岩場の破壊など生育地の改変が危惧される。</p> <p>個体の乱獲、盗掘、過剰な採取など、採取圧が高い。</p>
特記事項	安芸太田町では森林内の急斜面で人が入り難い岩場に自生が見られる。今後、深山の谷沿いの岩場で生育が確認される可能性がある。
産地情報	広島市（安佐北区、佐伯区）、東広島市（豊栄）、廿日市市（佐伯、吉和）、安芸太田町（戸河内）、神石高原町（油木）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ケキンモウワラビ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Hypodematium glandulosopilosum (Tagawa) Ohwi

ウラボシ目 キンモウワラビ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】夏緑性、暖帯性要素のシダである。好石灰岩植物で中国地方、四国、九州の石灰岩地帯にごくまれに自生している。広島県はタイプ産地。</p> <p>【分布】本州（中国地方）・四国（愛媛県・高知県）・九州（熊本県）；朝鮮半島・中国大陸（福建省・河南省・江蘇省）・タイに分布する。</p> <p>【形態】根茎は短くはい、長さ10~15 mmの鱗片を密生する。葉は長さ30 cm前後で、葉身は長三角形。葉の下面に毛に混じって単細胞の腺毛をもつ。胞子嚢群は裂片の中肋よりにつき、胞膜は円腎形から馬蹄形で密に毛がある。</p> <p>【近似種との区別】キンモウワラビに似ているが、葉面に毛とともに腺毛が混生する、鱗片の幅が広い、葉質に厚みがあるなどの点で区別される。</p>
生息・生育状況	県内の産地は国定公園内にある。石灰岩の割れ目などにまれに見られる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。
特記事項	タイプローカリティは帝釈峡である。国定公園内の石灰岩の岩壁の高所にも自生が見られる。採取不可能な自生地が多く、環境的にも安定していてしっかりと生育している。
産地情報	福山市（福山）、庄原市（東城）、神石高原町（油木、神石）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑 II. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

ナチクジャク 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Dryopteris decipiens (Hook.) Kuntze var. *decipiens*

ウラボシ目 オシダ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概 要	<p>【摘要】常緑のシダで、関東以西の本州、四国、九州の暖地に自生し、低山の林床などに生育している。</p> <p>【分布】千葉県以西の本州・四国・九州・屋久島；朝鮮半島・中国大陸・台湾に分布する。</p> <p>【形態】根茎は斜上し塊状。葉柄基部に線状披針形の鱗片を密生する。葉身は披針形から長楕円状披針形で、表面はやや白っぽく、かたい紙質、長さ20~40 cm、単羽状複生で羽片には短い柄があり、基部は心形、辺縁は波状鋸歯、下部の羽片では深裂する。孢子嚢群は羽片の中肋より一列につき、切れ込みの深い羽片では2から3列につく。胞膜は円腎形で全縁。</p> <p>【近似種との区別】マルバベニシダと葉質がよく似ているが、ナチクジャクは羽片に切れ込みがなく、葉身が細長いので区別できる。イヌナチクジャクは、ナチクジャクとマルバベニシダの中間の葉身をしている。イヌナチクジャクは羽片の切れ込みが深く深裂、下部は全裂しているものもあり区別できる。</p>
生息・生育状況	広島県では島嶼部を中心に暖地にまれに分布する。照葉樹林の林床や林縁部に生育する。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	<p>稀少なシダで、もともと個体数が少なく、個体群がきわめて小さい。</p> <p>特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。</p> <p>動物による被食や生育場所の攪乱がある。</p>
特記事項	廿日市市（宮島）ではシカによる食害の可能性もある。また、2005年の水害により、生育地の一部が流失した。
産地情報	東広島市（河内）、廿日市市（宮島）、江田島市（沖美）

関 太郎・中西弘樹・鈴木兵二・堀川芳雄 1975. 厳島（宮島）の維管束植物。厳島の自然—総合学術調査研究報告—（天然記念物彌山原始林・特別名勝厳島緊急調査委員会、編）、p. 221-332. 宮島町。

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス、東京。

(田丸豊生・吉野由紀夫)

オニイノデ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Polystichum rigens Tagawa

ウラボシ目 オシダ科

環境省: VU

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概 要	<p>【摘要】常緑性、暖帯性要素のシダで、林中のやや陰湿な地面に生育する。石灰岩地を好む傾向があり、県内では東部石灰岩地帯に自生がみられる。広島県はタイプ産地である。</p> <p>【分布】関東地方以西の本州・四国（高知県）；中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は短く塊状で直立から斜上、鱗片をつける。葉柄は葉身より短く、卵状披針形の鱗片を密につける。葉は長さ1 mに達し、葉身は広披針形で2回羽状複生、かたい革質。小羽片は基部で着生し、浅い鋸歯があり、その先端は硬いとげ状になる。中肋の鱗片は披針形。孢子嚢群は裂片の中間や中肋よりにつき、胞膜は円形で全縁から波状縁。</p> <p>【近似種との区別】オオキヨズミシダは中肋の鱗片が線状披針形で、孢子嚢群が中肋よりにつくことで区別される。</p>
生息・生育状況	広島県では東部の石灰岩、古生層地帯に生育し、個体数は少ない。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	<p>稀少なシダで、もともと個体数が少ない。</p> <p>開発行為や森林伐採などによる生育地の消失・縮小が脅威となっている。</p>
特記事項	備後深安郡山野村（現在の福山市山野町）がタイプロカリティ（基準標本産地）である。イノデ類ではヤシャイノデに次いで葉質が硬い。
産地情報	福山市（福山）、庄原市（東城）、神石高原町（油木）

田丸豊生・竹田孝雄 1987. 帝釈のシダ植物。帝釈の自然（帝釈の自然刊行会、編）、p. 189-200, pls. 8-16. 帝釈の自然刊行会、東城町。

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑Ⅱ. 507 pp. 学研プラス、東京。

(田丸豊生・吉野由紀夫)

カラクサンダ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Pleurosoriopsis makinoi (Maxim. ex Makino) Fomin

ウラボシ目 ウラボシ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	<p>【摘要】北海道から九州に分布する冬緑性の小型のシダである。湿った岩上や樹幹のコケの中に生育する。</p> <p>【分布】北海道・本州・四国・九州・屋久島；ロシア（極東）・朝鮮半島・中国大陸に分布する。</p> <p>【形態】根茎は長くは、赤褐色の毛をもつ。葉柄は葉身より短く、緑色。葉身は卵状長楕円形で、長さ 1.5～7 cm, 幅 1～2 cm, 2 回羽状複葉となる。孢子嚢群は裂片の脈上につき、羽片の中肋でつながっているように見える。</p> <p>【近似種との区別】とくに間違えるような種はない。小型のシダで、コケに交じって生えているジュウモンジシダ等の幼植物を見間違えることがある。</p>
生息・生育状況	<p>県中部から北部にかけて広い範囲で記録があるが、森林伐採やダム建設工事等の開発行為によって失われた生育地がある。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>継続的な減少、個体数の減少や個体群の縮小が著しい。</p> <p>生育地の改変、開発行為や森林伐採などによる生育地の消失・縮小がある。</p>
特記事項	<p>戦後のブナ林域の伐採によって、多くの生育環境が失われたと考えられる。この点を評価するのは困難である。三次市天然記念物（三良坂町内全域）</p>
産地情報	<p>広島市（安佐北区, 安芸区, 佐伯区）, 福山市（福山）, 三次市（君田, 作木, 三良坂）, 庄原市（東城, 高野）, 廿日市市（廿日市, 吉和）, 安芸高田市（高宮）, 安芸太田町（加計, 戸河内）, 北広島町（芸北）, 神石高原町（豊松）</p>

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑 II. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

モエジマシダ 情報不足(DD) DD-c

Pteris vittata L.

ウラボシ目 イノモトソウ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】岩上や石垣の隙間などに生育する常緑性シダ植物。</p> <p>【分布】本州（和歌山, 愛媛）, 九州, 沖縄, 世界の熱帯から亜熱帯に分布する。</p> <p>【形態】葉身は単羽状複葉。頂羽片が大きく発達し、長さ 20 cm, 幅 10 mm に達する。側羽片は、葉身の長さは 10～80 cm, 羽片は 20 対以上になり、線形、長さ 6～15 cm, 幅は 8～12 mm。孢子嚢群は葉の縁沿いに長くつく。</p> <p>【近似種との区別】オオバノイノモトソウに比べ、羽片が 20 以上あり、大型である</p>
生息・生育状況	<p>広島県内では、わずか 1 か所に生育している。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>生育地の改変（護岸工事, 土地造成, 道路工事）</p> <p>生育地の環境変化（自然遷移）</p>
特記事項	<p>園芸植物として栽培もされており、逸出の可能性もある。</p>
産地情報	<p>呉市（倉橋）</p>

久藤広志・倉岡正哲 2018. 呉市倉橋町本浦のモエジマシダ *Pteris vittata* L. について. げいなんの自然, 20: 38 - 39.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(久藤広志)

ミヤマシシガシラ 情報不足(DD) DD-b, DD-c

Blechnum castaneum Makino

ウラボシ目 シシガシラ科

環境省: なし

広島県 2011: VU

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】常緑性で、亜寒帯性要素のシダである。亜高山帯の林床の陰湿な場所に自生する。県内の自生地は、本種の西南限にあたる。</p> <p>【分布】本州（東北地方から関東最北部、信越から北陸、広島県以北の山陰）に分布する。日本の固有種。</p> <p>【形態】根茎は短く、斜上、葉を叢生する。葉は2形で、孢子葉は直立して栄養葉の2倍くらいの長さになる。葉柄は栄養葉で長さ6 cm程度、裏面は暗紫褐色で、さわるとざらざらする。葉身は狭披針形で、長さ15~35 cm、幅3.5~6 cm、羽片はやや幅が広い。孢子葉群は孢子葉の羽片の裏面に広がる。</p> <p>【近似種との区別】孢子葉が栄養葉の2倍くらいの長さになる。また葉柄や中軸の裏面は暗紫褐色になることから、淡緑色かわら色になるシシガシラと区別される。</p>
生息・生育状況	林縁部に生育する。広島市佐伯区の自生地は、道路の拡幅工事により消滅(?)した。県内においては絶滅した可能性がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	分布の西限域にあたり、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。希少な種で、個体数が少ない。森林の伐採、道路工事などによる生育地の改変が大きな脅威となる。
特記事項	庄原市（西城）で記録されたものは、再調査の結果ミヤマシシガシラではないことが判明した。県内での自生の確実な証拠が見つからないため、今回は現状不明で情報不足(DD)とした。再発見に努めたい。
産地情報	広島市（佐伯区）

松村雅文・井上尚子 2016. 広島県におけるシダ植物の分布. 広島市植物公園紀要, 33: 7-135.

海老原 淳 2016. 日本シダ植物標準図鑑 I. 475 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生・吉野由紀夫)

トゲヤマイヌワラビ 情報不足(DD) DD-a, DD-b

Athyrium spinescens S.Kurata

ウラボシ目 メシダ科

環境省: CR

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>【摘要】夏緑性のシダで、山地の林下にごくまれに生育する。自生地は少なく希少なシダである。</p> <p>【分布】本州（伊豆半島・広島）・九州（福岡県）に分布する。日本固有種である。</p> <p>【形態】ヤマイヌワラビとホソバイヌワラビの中間の性質を有する。葉柄下部の鱗片は黒褐色で、小羽軸の表面に刺をもつ。</p> <p>【近似種との区別】ヤマイヌワラビに似ているが、それよりも小型で葉質は草質で柔らかく羽片の柄が長い。小羽軸に短い刺を多数つける点などで区別できる。ヤマイヌワラビとホソバイヌワラビの雑種ヤマホソバイヌワラビとの区別は難しいが、正常な孢子を形成することで区別する。</p>
生息・生育状況	山地の樹林下に生育する。
存在を脅かす要因・保全の留意点	希少な種で、もともと個体数が少ない。特殊な分布、局限、孤立、分布限界など消滅しやすい分布特性をもつ。生育地の改変、森林の伐採が脅威となる。
特記事項	浜田展也・松村雅文（1998）によると、三次市（三良坂）で未発表の採集例があり、県内にはまだ分布している可能性が高いとのことである。
産地情報	広島市（佐伯区）、庄原市（西城、高野）

浜田展也・松村雅文 1998. 高野町のシダ植物. 広島県高野町の自然誌（比婆科学教育振興会、編）, p. 135-158. 高野町.

海老原 淳 2017. 日本シダ植物標準図鑑 II. 507 pp. 学研プラス, 東京.

(田丸豊生)

